



田崎学舎

㊦のしく ㊦わやか ㊦れいな 我らが学び舎
【合い言葉】… 高みを求めて一步前進

対話を大切に

校長 岩戸 淳

子供が順調に育っていると実感するときとは、どのようなときでしょうか。私でしたら迷わずに、反抗期に遭遇したときと答えます。

順調に育っている子供は、その過程で、必ずと言っていいほど大なり小なりの反抗期を迎えるものです。ですから、反抗期がきたと感じたときには、まずは我が子が順調に成長していることを素直に喜びましょう。

しかし、そうばかりも言っていられません。対応を誤ってしまうと、場合によっては後から取り返しがつかなくなることもなりかねない…。とは、うまく子育てをされた先輩の親の方々がおっしゃることです。

思うに、大切なことは、反抗期に対してどう向き合うかということではないでしょうか。親が、負けてなるものと戦闘モードで構えてしまつては、多くの場合に逆効果で、状態を悪化させ、長期化させてしまうことになります。なぜ反抗的な態度を示すのか。そもそも、なぜ反抗期がくるのか。ここらあたりを経験則としてとらえてみると、反抗期をスマートにやり過ごす方法が見えてきそうです。

経験則として反抗期をとらえると、周囲に強制されたり拘束されたりすることから脱して、自立しようとする成長の営みであると言えます。そうすると、反抗期をスマートにやり過ごす方法として、反抗期がくる前から、徐々に自主性や主体性を尊重するように接するとよいということになります。自主性・主体性を尊重するとは、ざばり「任す」ことです。その前提条件となるのが、お互いの信頼関係です。そして、それは、対話を大切にすることにより育まれていきます。

太い信頼関係のもとで、子供自身に任せ、判断させると、多少の困難にぶち当たっても自らの努力で克服するものです。そのことが、責任転嫁による挫折を回避することになり、いわゆる自己責任能力を身に付けさせることにつながるっていくのだと思います。

お子さんが幼いときから、親子の対話を大切にしてください。子供の言い分を最後までしっかりと聞いてあげてください。見え透いたうそやへりくつであるかわかっても、とりあえずは最後までしっかりと聞いてあげてください。そうすれば、きっと、任された子供は結果に責任をち、周囲の人を裏切らない、健全な成長を遂げてくれるものと思います。